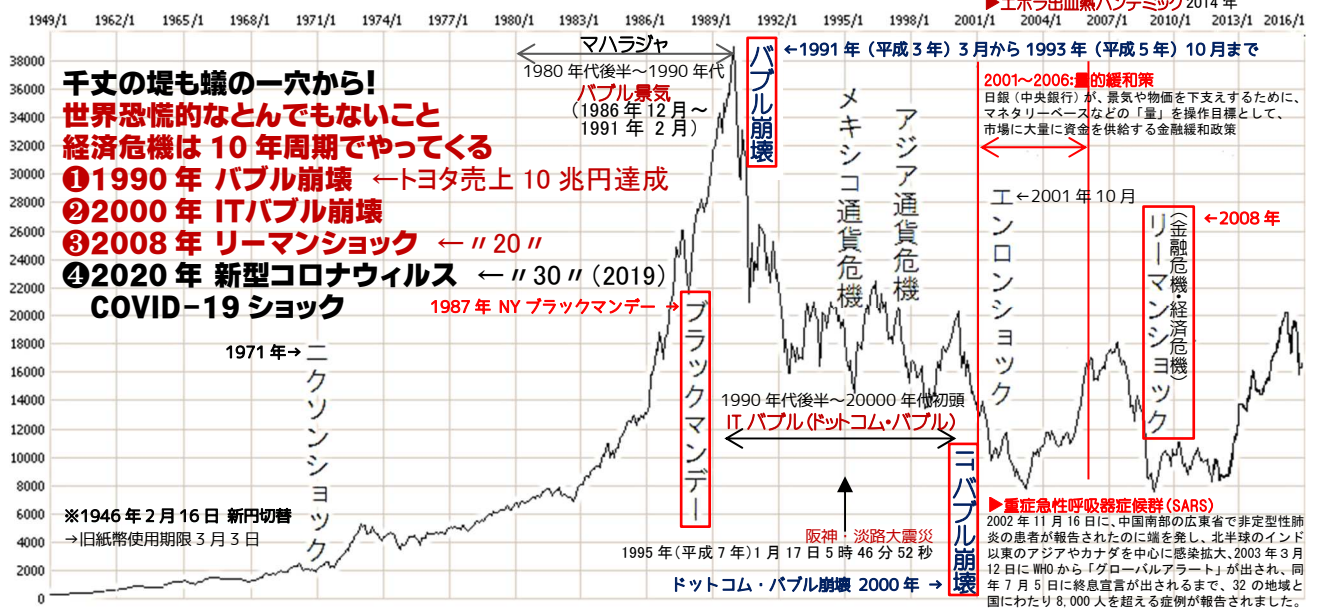


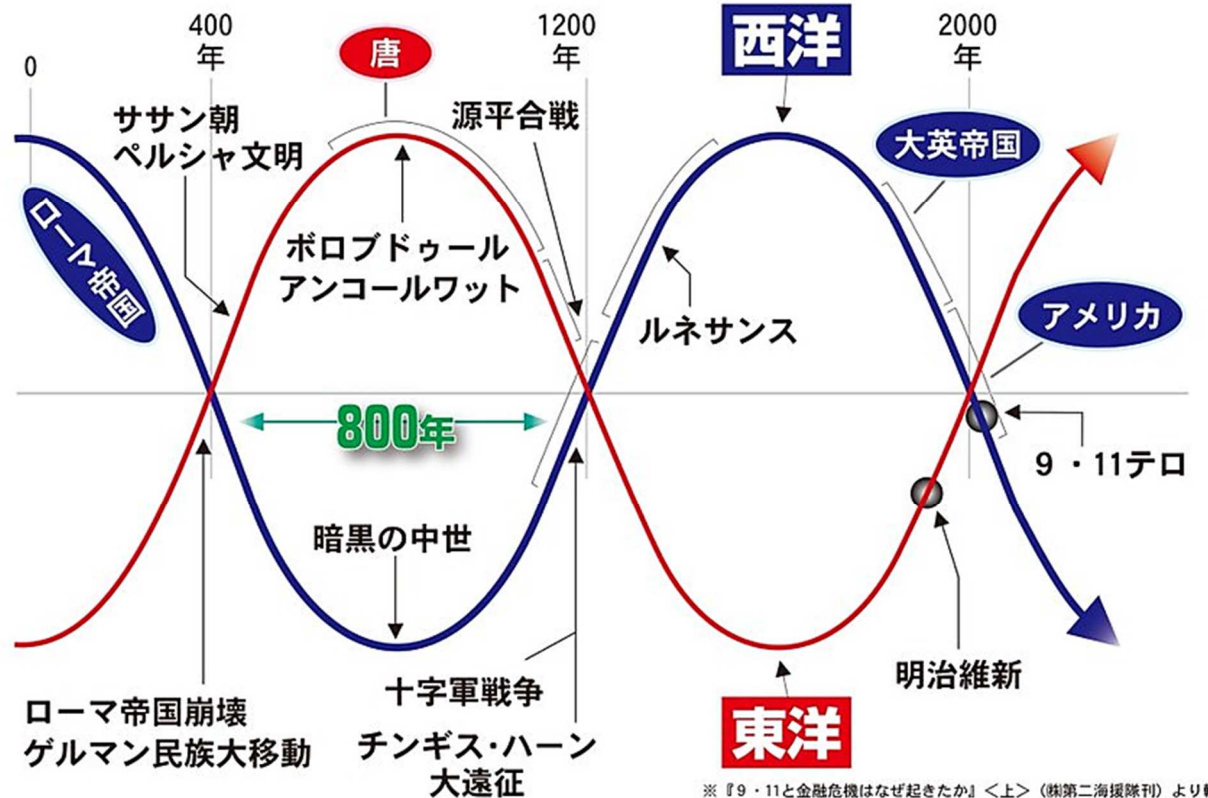
経済&世相:ブラックマンデー・バブル崩壊・リーマンショック等

千丈の堤も蟻の一穴から 非常に長い千丈もある堅固な堤であっても小さな穴がもつて崩れることがある、つまり、わずかな油断や誤りから大事を引き起こすことのたとえです。



ジュリアナ東京 1991年(平成3年)5月15日から1994年(平成6年)8月31日
 金融恐慌 1927年 ~1929年8月米国FRB公定歩合引き上げ~株式の膨大な売り注文~
 世界大恐慌 1929年10月24日(木) ニューヨーク株式市場(ウォール街)の暴落が起きて大恐慌が始まった(暗黒の木曜日)。
 昭和恐慌 1930年/オイルショック 1973年 (~1939年に始まった第二次世界大戦まで続いていく)
 リーマン・ショック 2008年9月15日に、アメリカ合衆国の投資銀行であるリーマン・ブラザーズ・ホールディングス (Lehman Brothers Holdings Inc.) が経営破綻したことに端を発して、連鎖的に世界規模の金融危機が発生した事象を総括的によぶ通称である。

東西文明の明暗は800年ごとに入れ替わってきた



※「9・11と金融危機はなぜ起きたか」<上>(朝第二海援隊刊)より転載

2019年10月初めを起点とした世界株価指数、世界グロース株指数、世界バリュース株指数の推移と「K字型物色」を象徴するキーワード（セクター）をイメージしたものです。

世界のグロース株とバリュース株の推移（2019年10月初=100）



世界株価指数、世界グロース株指数、世界バリュース株指数=MSCI World Index

上記は参考情報であり、投資成果を保証するものではありません。

出所 (図) : Bloomberg より楽天証券経済研究所作成 (2020年8月5日)

▶内閣府が2020年8月17日公表した4~6月期の国内総生産（GDP）の1次速報は、物価変動の影響を除いた実質（季節調整値）で前期（1~3月）より7・8%減り、3四半期連続のマイナス成長になった。このペースが1年間続いたと仮定した年率換算では27・8%減。

成長率のマイナス幅は比較可能な1980年以降で最大で、事実上、戦後最悪の落ち込みだ。コロナ危機が国内経済に与えた打撃の大きさが浮き彫りになった。

3四半期連続の減少は、東日本大震災を挟んだ11年4~6月期以来、9年ぶり。これまで最大だったリーマン・ショック直後の2009年1~3月期の年率17・8%減も、大きく上回った。

記録的なマイナスに陥った最大の要因は、GDPの半分以上を占める個人消費が、前期比8・2%減に落ち込んだことだ。下落幅は、消費税率が8%に上がった14年4~6月期の4・8%減を上回り、過去最大だった。

企業の設備投資も、1・5%減で、2四半期ぶりに減少した。住宅投資は0・2%減。内需を構成する項目は総じて振るわなかった。

一方、輸出も18・5%減と急落した。世界的な景気後退により海外で自動車など日本製品の売れ行きが落ち込んだ。統計上は輸出に区分される訪日外国人客の消費が、渡航制限でほぼゼロになったことも響いた。輸入は0・5%減。輸出から輸入を差し引いた外需も大幅マイナスだった。

一方、物価変動を反映した名目GDPは前期比7・4%減（年率26・4%減）だった。